

年頭の
 ご挨拶

大変革の年に

日本病院薬剤師会

会長 堀内 龍也 Ryuya HORIUCHI



新年お目出度うございます。今年を薬剤師の飛躍できる年と位置づけておられる方も多いのではないかと拝察致します。

本会の会長をお引き受けしてから2年近くが経ちました。早いものです。夢中のうちに過ぎてしまいました。できるだけ多くの会員の方と話をし、意見を聞きたいと思い、全国のたくさんの会に出席し、話し合いに参加させていただきました。そして、多くの薬剤師が将来に夢を持っており、元気一杯であることを知り、大変勇気づけられました。そのエネルギーを貰って、新しい業務に向けて厚生労働省にも働きかけました。

病棟に薬剤師が常駐して「薬に関することは薬剤師が責任を持つ」ことを訴えてきました。事実、多くの会員が病棟で本当に努力してくれています。その結果、薬剤師が病棟にいて薬に関する様々な仕事を行うことが、医師からも、行政からも評価されるようになりました。病棟に薬剤師が常について、患者、医師、看護師などと話し合いをしてチーム医療に貢献することの評判がとても良いのです。嬉しい限りです。なかでも、薬剤師が患者に信頼される姿をみると、これからの薬剤師のあるべき姿に確信が湧いてきます。「顔の見える薬剤師」になっているのです。

そのためにも、薬剤師は新しい取り組みをすることが大事です。薬物の有効性を確認し、副作用の発現を防止するために、薬剤師もバイタルサインはもちろん、フィジカルアセスメントを行うことが当たり前になるようにしたいものです。また、チーム医療の中で十分にチームのメンバーとコミュニケーションをとりながら、一定の処方や採血も薬剤師ができるようにしたいものです。そして、このような薬物療法、さらには医療全体の安全に責任を持つ薬剤師の業務が広く評価されて、診療報酬に反映されて、もっともっとたくさんの薬剤師が病棟で働けるようにしたいものです。注射を含めた薬剤投与にも視野を広げたいものです。

今年は新しい法人制度に移行する準備が山場を迎えますが、まず一般法人に移行することの準備が進んでいます。そのために会員の資格を全国で統一するなど解決しなければならない問題があります。新法人への移行を契機に、一回り大きな活力のある組織にしたいものです。

様々な業務展開をするために、薬剤師全体の資質向上のための努力を一層強める必要があります。さらに、専門薬剤師、専門領域の認定薬剤師制度を確固としたものにしなければなりません。がん専門薬剤師の認定制度は日本医療薬学会に移管して、医療法上、宣伝できる専門薬剤師制度を目指すことになり、昨年11月に移管致しました。決定までに時間的余裕がなく、会員の皆様に戸惑いを生じさせたこととお詫び申し上げます。

本年から始まる六年制薬剤師教育の長期実務実習では、何としても質の高い、均質な病院実習を実施しなければなりません。私たちは多くの施設を体験できる積極的な意味での多施設実習、ふるさと実習を主張していきたいと思っております。将来の薬剤師のために、全国で素晴らしい実習を展開しようではありませんか。

本年が病院診療所で働く薬剤師、医療に携わっている薬剤師に飛躍の年になることを祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。